



神の民として生きる

聖書の全体像から見る「神の民」クリスチャンとは

第一部 礼拝 「アブラハムの祝福は」(創世記12章1-20節)

アブラハムへの祝福はアブラハムのためではなく、すべての民がアブラハムによって祝福されるためです。神と民との間の仲介者としての役割をいただいています。神の代表としての王としての役割と、民の代表としての祭司の二重の役割です。神のみこころをこの地に果たす大切な務めと、隣人と家族のために祈って行く大切な責任をいただいています。教会もそのために建てられています。

第二部 修養会 「小羊の婚宴に招かれて」(黙示録5章1-14節)

黙示録では新天新地、新しいエルサレムを「小羊の婚宴」を表現しています。それは創世記のエデンの園で失われた夫婦のあり方を回復するためです。旧約聖書ではおとめイスラエルの回復を願う主なる神のうめきがあります。新約聖書では花婿であるキリストに立ち返る花嫁として教会への招きがあります。失われた夫婦、家族の愛の回復を神は約束しています。

日時：**4月10日(日)**

場所：**古川福音自由教会会堂** ※費用は無料です

講師：**上沼昌雄先生** (神学博士、「聖書と神学のミニストリー」代表、作家、翻訳家)



1945年群馬県前橋生まれ。高校2年生の時に宣教師によって信仰に。北海道大学クラーク聖書研究会。聖書神学舎。K G K東北主事。トリニティー神学校、シカゴルーテル神学校。神学博士。聖書神学舎教師、川越聖書教会、久留米キリスト教会牧師歴任。1989年に再渡米。「聖書と神学のミニストリー」を設立。『夫たちよ、妻の話を聞こう』、『苦しみを通して神に近づく』、『夫婦で奏でる霊の歌』、『闇を住处とする私、やみを隠れ家とする神』、『父よ、父たちよ』、翻訳『クリスチャンであるとは』を出版。ホームページ(<http://druenuma.wordpress.com>)。妻は宣教師の娘。一男二女の父。孫6人。カルフォルニア在住。